

パチンコ・パチスロ依存問題の予防と解決に取り組む事業・研究への支援

「地域のニーズと依存症者の回復・社会参加を結ぶ伊勢志摩プロジェクト」事業

シームレスな社会参加を通して実践する 依存症者支援の新たなモデルの提示

依存問題を抱える人たちの回復支援・交流施設を活用して、一般客を対象にした宿泊事業を行ったり、地域住民のために買いもの支援バスの継続的な運行を行うなどして、地域住民や一般市民のニーズに応えつつ、シームレスな形で社会参加を促進することで、依存症者に対する新たな支援モデルを創り出そうとしている。



志摩 LABO を宿泊施設として一般営業し、地域の観光産業に貢献しながら、依存症者の社会参加を支援



依存症者支援で20年以上の実績がある 団体が地域での新たな支援モデルを構想

1999年に三重県津市で設立されたNPO法人「三重ダルク」は、アルコール・薬物・ギャンブル・ゲーム・盗癖などの依存問題を抱える人たちのためのサポートコミュニティを運営している。依存症本人や家族の相談・回復支援をはじめ、三重県との協働による依存症ネットワーク事業、三重刑務所における薬物依存離脱指導教育や津保護観察所引受人会への講師派遣、三重県内の小中学校への薬物乱用防止講話講師の派遣、ギャンブル問題を持つ本人のための拠点作りとパフォーマンススタジオの運営などの事業に取り組んでいる。

これまでPOSCの助成を活用し、三重県志摩市に新たな拠点を確保し、依存問題を抱える人たちの受け皿の整備・拡充を行ったり、依存問題に対して優れた先進的取り組みを行なっている個人や団体の訪問、支援スタッフの

研修などを行ったりしてきた。2022年には、三重県志摩市に新たな拠点となるShima Emergence Labo（通称、志摩LABO）を立ち上げた。

志摩市で地域住民との話し合いの機会を設け、地域のニーズをヒアリングした結果、近隣にスーパーなどの商業施設がなく、公共交通機関も不便であり、いわゆる「買いもの難民」と呼ばれる高齢者が多いことが明らかになった。また、志摩LABOは宿泊可能な客室を備えた施設でもあるため、宿泊施設として一般営業をすることで、地域の観光産業に貢献しながら、依存症者の社会参加の支援が行えるのではないかと意見があった。そこで一般宿泊事業と買いもの支援バスの運行を行うことで、地域の高齢者や観光・出張などで志摩市を訪れる人々を直接の受益者としつつ、依存症者の社会参加を支援する事業に取り組むことにした。

一般宿泊客を対象としたホテルの営業や 買いもの支援バスの運行で社会参加

2023年度のPOSCの助成を使い、4月に一般宿泊客を対象としたホテルとしての営業開始のためにキャッシュレス決済機器を導入し、5月には宿泊予約サイトに掲載するための宿泊約款や利用案内を作成したほか、ランドリールームを新設した。7月中旬には一般予約の受付を開始し、お盆・年末年始・春休みの繁忙期には多数の予約が入ったほか、ほかの時期にも一定の予約があり、継続性が期待できる結果となった。利用客からのフィードバックをもとに庭園や館内の整備も進め、有名旅行サイトの口コミでも10点中8.8点という高評価を得ている（2024年4月時点）。

また、買いもの支援バスの運行では、買いもの目的だけでなく、散歩、高齢者同士や運転スタッフとの交流を目的に利用する人もいる。利用者から感謝の言葉や家とれた果物などをいただいたり、世間話で盛り上がりたりしている様子に、運行を始めてよかったと深く感じている。バス事業に関しては志摩市社会福祉協議会より新たな地域への路線拡大の提案をいただいているほか、他地域から

の参加希望者も出てきている。

こうした事業の目的は、依存症者を単に支援対象者として分けて捉えるのではなく、地域住民に便益が発生するようなシームレスな形で社会参加のモデルを実践することにある。一般市民が受益者になるサービス事業においては、そこで就労する依存症者は単なる支援の対象ではなく、サービスを提供する側に立つことができる。そうした関係性が継続していく中で、本事業が地域における社会的活動の一部として地域住民や一般市民から認知され、依存症者との間に交流やコミュニケーションが生まれることで、支援と社会参加の新たな形が誕生することを期待している。

三重県遊技業協同組合より

依存症問題の解消や依存症者の支援のために様々な活動に取り組んでいる実績のある団体が新たに展開する事業に賛同し、地域の遊技組合として助成を決めました。



研修に来たスクールソーシャルワーカーに三重ダルクと志摩LABOの概要を説明する三重ダルク代表市川さん



地域住民から好評を得ている買いもの支援バスの運行事業

助成団体: 特定非営利活動法人 三重ダルク

<https://miedarc.com/>



依存症者の回復、社会参加の場として多様な活動を展開

本事業を通じて志摩市の地域の高齢者の方々からいただく感謝の言葉や観光に来られる方々の楽しむ姿、そこにスタッフが見出すやりがいは、POSCに助成いただいたからこそ実現できたものだと思います。Shima Emergence Laboでの活動は多様化しており、回復の場としてのあり方は、年を追うごとに深みを増していると感じています。

特定非営利活動法人 三重ダルク
常務理事 市川 岳仁さん